

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年11月8日
作成 高齢者支援センター	忠生第2
作成者	井田 美喜子

1.開催日時	2023年10月26日	(木)	18:00	～	20:00	
2.会場	オンライン開催					
3.主催センター	忠生1	・	忠生2	・		
4.参加人数	19人					
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	8人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	2人	(うち、医師 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	4人	
	<input type="checkbox"/> 民生委員	人	<input type="checkbox"/> 老人会	人	<input type="checkbox"/> 住民	人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会	1人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政	2人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	(障がい者支援センター 1人)				
6.開催テーマ	支え合いの町忠生「災害と感染症の中での私たちの暮らし」					
7.地域課題	<p>(1) 課題設定の背景</p> <p>災害時の自助への備えについて、先駆的な取り組みを行っている町内会もあることがわかったが、全体的に見るとまだまだ自助に関する意識が低い現状がある。災害時には救急・消防・警察も来ることができないことを想定し、自分の命は自分で守る意識を高める必要がある。</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>災害時に行政の支援が届かないであろう72時間を、地域住民がどのように行動したら生活を継続できるのか。</p>					
8.会議の内容	<p>1.前回の振り返り</p> <p>2.町田市防災安全全部防災課、担当係長井上氏より防災講話(地震)</p> <p>3.講話を聴いて本会議にむけて「自助・公助の備え」について2グループに別れてグループワーク及びグループ発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害後にガラス等の飛散でけがをしないためにはベッドの側に靴を置く。 ・停電時はほうきとちり取りがあると良い、負傷者や荷物の運搬にリヤカー等具体的な備えに関する意見がでた。 ・介護事業所が地域住民と共に防災訓練をしたいと考えても現状ではハードルが高く実施が難しい。→まずは地域の事業所が合同で訓練を行いながら地域にアピールしてはどうかと提案があった。 ・ライフラインが止まった場合復旧までにかかり時間がかかることが分かった。改めて復旧までの備えや過ごし方(暑さや寒さ対策等)が課題であると感じた。 ・共助に関しては地域住民と施設・事業所がお互いに何ができるのか。地域住民は施設・事業所に対して何を求めているのか具体的な情報や意見交換が必要。 ・独居、高齢者世帯等で自分で避難できない人に対して、自助・共助でどのようなことができるか?の課題が共有された。 <p>防災課の講話を聞き、グループ発表から出た意見を基に「自助・共助」に関する課題共有を行った。</p>					
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>これまで地域ケア会議(企画会)で、防災について総論的な話し合いを重ねてきた。災害への備えはそれぞれの立場によって発想や課題が異なることが明確になってきた。また防災講話の中で、阪神・淡路大震災での教訓として、生き埋めや閉じ込められた方の救助は、97.5%が「自助・共助」によるものであったことがわかり、改めて災害時に「自助・共助」の備えが重要だと認識することができた。3月に予定している本会議の進め方を検討する。それぞれの立場でできる自助・公助の取組や自助の備えについて具体的な内容をまとめる。今回の会議(講話)では災害時の医療救護の拠点一覧の提示のみとなった為、災害拠点病院、災害拠点連携病院、災害時医療拠点の違いや役割についての知識を持って、医療面での自助・共助の備えができるように内容や課題を検討する。</p>					
10.その他						

医療と介護の連携支援センター 確認日	11月 7日
--------------------	--------